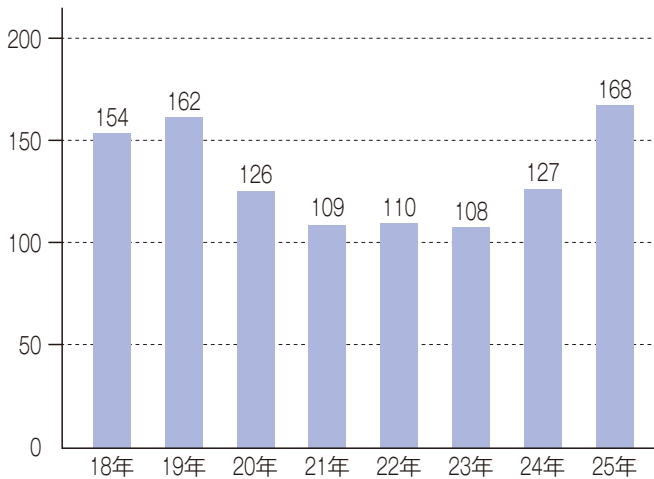


火災件数の推移

平成18年以降最多の火災件数

平成25年の火災件数は、平成18年の市町村合併後で比較すると、最多の発生件数となりました。前年と比較すると41件増加し、うち建物火災は14件、枯れ草などによるその他の火災は29件増加しました。

火災件数の推移 平成18年以降最多の火災件数



火災による死傷者数の推移

死者数が前年より4人増加

前年と比較すると、平成25年の火災による死者数は4人増加し、増加したのは全て住宅火災でした。また、負傷者数も全体で3人増加しました。



火災による死傷者数

単位：人

	火災による死者数		火災による負傷者数	
		うち住宅火災		うち住宅火災
平成25年	6	5	12	9
平成24年	2	1	9	8
平成23年	5	3	13	11
平成22年	9	7	12	8
平成21年	6	3	13	5
平成20年	6	6	11	7
平成19年	5	5	24	12
平成18年	4	1	19	8

▶▶ 住宅用火災警報器は適切な維持管理を ◀◀

住宅用火災警報器は、住宅防火対策の1つとして、平成20年に設置が義務化されました。この火災警報器のおかげで、火災の発生に早く気づき避難ができて命が助かった、消火器などによる初期消火に成功し大事に至らなかった、また鍋の空だきに気付いて火災に至らなかったものなど、火災による被害を軽減できた事例が数多く報告されています。この住宅用火災警報器を「いざ」というとき機能するよう、適切に維持管理しましょう。



住宅用火災警報器が汚れていたら

住宅用火災警報器にほこりなどが付くと、火

災を感知しにくくなります。汚れている場合は乾いた布などで拭き取りましょう。

定期的に点検を

住宅用火災警報器がきちんと作動するか確認しましょう。住宅用火災警報器本体から下がっているひもを引く、あるいはボタンを押すなどして、作動するかどうか点検しましょう。

交換時期の確認を

電池が切れる時には、音声や注意音が鳴りません。電池が切れたら、新しいものに交換しましょう。また、警報器本体の寿命はおおむね10年程度です。設置後10年を目安に本体を交換しましょう。

